

## 「老朽化した水道管の緊急調査」の結果 異常は確認されませんでしたのでお知らせします

川崎市上下水道局では、令和7年4月30日の京都市内で発生した漏水事故を受け、国土交通省から5月7日付けで発出された「老朽化した鉄管の緊急調査の実施について」の実施要請に基づき、緊急輸送道路下に埋設されている鉄管を対象に目視による巡回を実施しました。

その結果、現時点では異常は確認されませんでしたのでお知らせします。

### 1 調査期間

令和7年5月13日から実施し、5月21日に完了

### 2 調査延長

国土交通省からの実施要請に準じ、緊急輸送道路下に埋設されている鉄管約4km

### 3 調査結果

目視による巡回の結果、異常は確認されませんでした

### 4 今後の対応

本市では、地震時の被害が想定される鉄管を老朽管と位置付け、早期の解消に向けて優先的に更新を進めてきました。現時点では残存している鉄管は、道路工事が計画されている路線や関係部署との協議調整に時間を要している路線などによるものであり、解消に向けて引き続き関係者と調整を実施するとともに、漏水の危険性を考慮した点検頻度による地下漏水調査を実施し、漏水の早期発見と修理に努めてまいります。

#### 問合せ先

川崎市上下水道局水道部水道計画課 山原  
電話 044-200-3151

## 「老朽化した水道管の緊急調査」を開始しました

川崎市上下水道局では、令和7年4月30日の京都市内で発生した漏水事故を受け、国土交通省から5月7日付けで発出された「老朽化した鉄管の緊急調査の実施について」の実施要請に基づき、次のとおり水道管の点検を開始しました。

### 1 漏水事故防止に向けた本市の取組

老朽化した水道管とは、昭和30年代まで採用していた鉄管で、現在主に採用しているダクタイル鉄管に比べて衝撃に弱い材質となっています。

そのため、本市では、地震時の被害が想定される鉄管を老朽管と位置付け、早期の解消に向けて優先的に更新を進めてきました。

道路工事が計画されている路線や関係部署との協議調整に時間を要している路線などがあり、水道管総延長約2,500kmのうち、令和5年度末時点で約10kmの鉄管が残存していますが、引き続き関係者と調整を実施してまいります。

また、本市では、市内を562区画に分割し、過去の漏水修理履歴や古い配水管の延長などにより、漏水の危険性の重みづけを行い、漏水調査の実施周期を設定しています。漏水の危険性が高い区域は毎年あるいは隔年で漏水調査機器を用いた地下漏水調査を実施しており、漏水の早期発見・修理に努めています。



### 2 緊急調査の概要

#### (1) 調査対象

緊急輸送道路下に埋設されている鉄管：約4km

#### (2) 調査方法

道路上からの目視による巡視

#### (3) 調査スケジュール

令和7年5月13日に調査を開始し5月末までに完了します。

結果については調査完了後、お知らせします。

問合せ先

川崎市上下水道局水道部水道計画課 山原  
電話 044-200-3151